マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所　弁理士◇葦原 エミ
ashihara.emi@yki.jp

Vol.31　“プライオリティー”

土曜の午後、この原稿をいつ書くかで筆者は苦悩した。締め切りまであと２日半しかない（それまでほっておいた筆者が悪い。。。）。明日は丸一日ホームパーティー、明後日は既に超多忙が予想されているうえ、「電話会議をしたい」というフランスからのメールをゲットしてしまう（週末にメールチェックなんてするもんじゃない。。。）。

あぁ、焦りすぎて、今日中にやってしまわなければならないことの優先順位がつけられない～！

以下をどの順序でこなすか。さあ、どうする、どうするっ！？

① 原稿作成（ネタがない）
② パーティーの準備（料理は実は苦手だ）
③ けがをしてしまった友人にドイツ語でお見舞いの手紙を書く（早く送ってあげたいが、作文がとっても大変）
④ ドイツ語教室の宿題をやる（５ページもある！）
⑤ 電話会議の準備をする（論点整理しておかんと！）

結局、「締め切りモノ」＝「この原稿」が一番後回しになった。次が準備しておかなければ困る電話会議。全部やりたい。だが、締め切りモノは落とせない（から、絶対やる）。他はやらなかった場合、「自分が困る」程度。でも、困るのはヤダ。心情が優先した。

筆者はまず、いっぱい時間をかけて、お見舞いの手紙を書いた③。で、サボろうと思えばサボれる④、ワインだけ出せばなんとかなる②、締め切りモノの⑤、①の順に決めた。

実は、常にこうした判断を迫られている。期限があるものとないものなら、そりゃ前者のほうが重要でしょ、と思いたいところだが、後者を後回しにすると、結局「やらない」になってしまうこともあり、長期的にみればよろしくない。

期限が近づいている案件をいっぱい抱えても、日々の判決や審決、各国の法改正のニュースレターに目を通す時間を取らなきゃ……といつも思う（やらないときもあるので、超反省）。

締め切りも法的期限のように絶対的なものと、自分で設定したものがあった場合、後者に甘くなりがちだが、これは危険だ。筆者は内内･外内案件も、内外案件も扱っているが、一度にさまざまな案件が降ってきていっぱいいっぱいになってくると、この優先順位で悩むことが多い。

中国など、拒絶の応答期限が極めて短い国を除けば、海外案件のほうが比較的猶予がある。だけど、現地代理人の準備期間を考えると、国内クライアントからはいつまでに指示を受ける必要があり、そのためには自分がさっさと報告しないと……と、心理的重圧は内外のほうが大きいかもしれない。

絶対期限でないものを、あたかも絶対期限であるかのように締め切りを守るということは、意外と大切なのだ。

プレッシャーにめっぽう弱い筆者は、いろいろな締め切りが迫ってくるとギャーギャーわめく。周囲は「またか」といった様子。

「どうしよぉ～、プレゼン準備が終わってないー（汗）！」

「大丈夫、大丈夫（ニコニコ）。エミさん、いつだってちゃんとやるじゃない。そもそも本気で間に合わないとは思ってないでしょ？」

……確かに。筆者は、もう少し危機管理の意識を持って、わめいている暇があったらさっさと着手すべきかも。

ってなことを思いつつ、本日の課題はすべてこなし、「最後の課題」＝「この原稿」も書き終わらんとしているので、筆者の優先順位は正しかった。。。のかなぁ！？